

少しの学習が大きな力に・・・。

チャードキアット・アッターゴン

どうすれば最も困難な状況にある人々に有益な形で届くのでしょうか。彼らが自らの人生の軌道を変え、周囲に影響を与え、社会や国を発展させるために、何を与えればよいのでしょうか。それは、質の高い教育を受けられるようにすることです。

何度も何度も、教育は他に人生で成功する手段を持たずに生まれてきた多くの人々の人生を変える唯一で最も効果的な手段となってきました。実際、教育は、特権と不平等を克服するための社会的地位であり続けています。社会の片隅でもがく人々にとって、教育は扉を開くものなのです。

マハ・チャクリー・シリントーン王女殿下は、タイの多くの恵まれない子どもたちにその扉を開き、タイの教育システム全体を改善するために担当機関に従事してきました。王女の唯一の願いは、質の高い教育をすべての人、特に最も恵まれない人たちが受けられるようにすることでした。タイでは、遠隔地や農村部に住む子どもたちが質の高い教育を受けられるようにすることを意味しています。また、交通の便が悪い山間部や、近隣諸国との国境に近い地域に住む子どもたちにも質の高い教育を提供することを意味しています。



王室プロジェクト委員会（ORDPB）管轄のタイ北部チェンマイ県メーテーン区「ライオンズ・マハチャック 9 国境警備警察学校」。

出典：Office of the Royal Development Projects Board (ORDPB) ウェブサイト

殿下は、若い頃から知識の力を強く信じておられました。殿下自身も、タイの国民の生活をより良くするために、様々な知識を学び、実践することに力を注いでこられました。殿下は、タイ国内だけでなく、世界中での知識の共有、技術支援、資源調達のネットワークを構築することを最終目的として、政府、民間を問わず、すべての関係者の連携を進めることによる、「万人のための教育」の提唱に力を注いでいます。

王女のビジョンを受け、政府や学術機関も王女に倣って、学問の卓越性と国の将来の世代のためのより良い生活を追求するようになりました。1979年には、そのビジョンが具体化され、プリンセス・マハ・チャクリー・シリントーン財団が設立され、学校、専門学校、大学の貧しい学生を実際に支援する活動を開始しました。そして1983年、殿下はこの取り組みを拡大し、農村部に住む子どもたちがより質の高い教育を受けられるようにするプロジェクトを開始しました。

このプロジェクトの活動を通じて、教師、特にタイ王国国境警備警察の教師は、これらの子どもたちの具体的な学習成果の達成を目標とした特定の条件下における特定の教授法に関する訓練を受けたのです。このプロジェクトはその後、無国籍の子どもや少数民族の子どもたちの教育改善に特に重点を置いて、訓練を行うようになりました。

殿下は、恵まれない子どもたちに影響を与えれば与えるほど、子どもたちの成長を形成する他の要因も同様に認識し、重要視されるようになりました。例えば、給食プロジェクトを通じての栄養補給やヨウ素欠乏症対策、農村部の学校への技術提供、表彰や奨学金制度による教師の質の向上などです。

1990年、殿下は「欠乏症対策プロジェクト」を立ち上げられました。ユニセフやタイの製塩会社と協力し、タイの小学生におけるヨウ素欠乏症の割合を継続的に5%未満に抑えています。

1995年、殿下は教育のための包括的なITプロジェクトの一環として、加盟校にコンピューターやIT機器へのアクセスを提供し、不平等を解消する「農村学校向けITプログラム」を開始されました。このプログラムを通じて、タイの農村部や遠隔地に住む教師や生徒たちは、テクノロジーの活用を体験し、その能力を高めることができました。



オンライン学習

出典：マハ・チャクリー・シリントーン王女主導による情報技術財団 ウェブサイト

その後、殿下の長年にわたる教育分野での献身と貢献をきっかけに、タイ教育省教員評議会
は殿下を称える「プリンセス・マハ・チャクリー・アワード」を2015年に創設しました。同
賞は2年に1度、ASEAN加盟国および東ティモールの優秀な教員11名に授与され、献身的な
教員の顕彰、教職の振興、教育分野における国際関係の強化に寄与しています。



出典：プリンセス・マハ・チャクリー・アワード ウェブサイト

殿下の活動は、国際社会やいくつかの国際機関からも評価されています。

そのひとつがユニセフで、タイの子どもたち、特に遠隔地や恵まれない地域の子どもたちの生活向上に大きな役割と揺るぎない貢献を果たしたとして、生涯功労賞を授与しています。

1991年、マハ・チャクリー・シリントーン王女は、荣誉あるラモン・マグサイサイ賞（公共サービス部門）を受賞しました。1957年に創設されたラモン・マグサイサイ賞は、アジア最高の荣誉とみなされており、アジアのノーベル賞に匹敵します。

マグサイサイ賞の授賞式で、殿下はご自身の功績の背景にあるインスピレーションを次のように聴衆に披露されました。

「愛する国タイの発展と繁栄を目指し、恵まれない隣人がより良い生活を送れるよう、あらゆる活動に参加することは1人のタイ人としての義務であり、また最高の願望でもあります。」

実際、人々の幸福や生活の質は、一人の人間だけでは向上させることはできません。集団的で一貫した努力が必要であり、時間もかかります。私たちの子供たちや次世代の未来のために、社会の幸福に貢献するためには、私たち全員がそれぞれの役割を果たす必要があるのです。私たちが暮らすこの世界では、世界的な経済不況、貧困、犯罪、失業など、社会悪と無縁の人は誰もいません。質の高い教育こそが、刻々と変化する環境に人々を備えさせるのに最も効果的であり、目まぐるしく変化するダイナミックで予測不可能な世界情勢に対応できるようにするものです。

私はまた、知識の力、そして、少しの学習がすべての人、特に私たちが最善の努力を払って引き上げていかなければならない最も遅れをとっている人々にとって大いに役に立つと強く信じています。



チャードキアット・アッタゴーン氏は外務次官で、タイの外交官を対象にキャリア全体のトレーニングを組織するデーワウォンク・ワロパガン外務省研究所を監督しています。外務省報道官、駐ケニアタイ大使、東アジア局、ASEAN 局、国際機関局の副局長などを歴任し、外交分野で幅広い経験を持っています。